

---

# **水の星へ愛をこめて**

スグル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

水の星へ愛をこめて

### 【著者名】

NZマーク

NZ3589F

### 【作者名】 スグル

### 【あらすじ】

乗り間違えたから始まった、世界を感動させた剣道部員達の物語。

秋田君……、ちょっと……、話がある……。

新人戦県大会出場のヒーテキ高校剣道部一同は、今、会場へ向かっていた。

その移動中、顧問の笠錦に呼び出された女子マネージャーの秋田恋街は耳にはめていた iPod のイヤホンを外して、笠錦の隣に座つた。

イヤホンからは、彼女が聞いていた電気グループの『シャングリラ』の音が漏れ、座席では顧問の笠錦は、今にでも、なにかを吐き出しそうな青い顔をしていた。

なので、秋田は座席にあるエチケット袋を取つた。

「いや、そうじゃない……」

エチケット袋を持つた彼女の手を止めて、笠錦は、この場に居る選手達全員を、キヨロキヨロと見渡す。

選手達は、わーぎやー、と騒いでいる。

「どうしたんですか、そんな仮面ライダー旧1号みたいな青い顔をして……」

一部にしか解らない例えをして、秋田は、様子のおかしい笠錦をなだめる。選手達を見渡し終わると、笠錦は深く深呼吸を何回も何回もして、自らを落ち着かせる。そのタバコ臭い息は、秋田を不快にさせた。

すると、笠錦は静かに口を開く……。

「乗り間違えたんだ…」

その言葉に、秋田はエエーッ！？と驚く。

「どうするんですか!? 大会は明日ですが、今日、宿泊の予約をしてた旅館に連絡しな...」

「そんなレベルの間違いじゃないー！」

電車を間違え、予定が狂つたことに焦っていた彼女を怒鳴る笹錦。秋田は、あつけらかんとなり、ゼーはー、ゼーはー、と 笹錦は、また深呼吸を繰り返す。

大会は明日だし、旅館にはフオローが効くし、また乗り代えれば良いのに、何故、そこまで、笹錦は取り乱すかを疑問に思う秋田は、座席の窓に目をやつた。

窓には、青い水の惑星が映っていた。

間違つて乗つたスペースシャトルの中で、座席に座る選手達全員に、事実を皆に告げた笹山は無重力に体を預けて、難しい顔で腕を組み、宙に浮く。相変わらず、窓には故郷の地球が青く輝く。

斎に騒ぎ始めた。

「おいー。ビリすんだよー。」これ、間違えたとかのレベルじゃねえぞ！」

「寝てる途中に、なんか体が軽くなつたと思つたよー…」「ていうか、気付くの遅いよー…」

「おー、窓を見ろーあの有名な白い一足歩行の残骸が浮いてるぞー。」

「どおりで、なんか、移動費が高いと思つたよー。」

一斉に放たれる選手達の反感の的になる笹錦は、急に皿をかつ開け、宙に浮きながら壁を叩く…。

「うるさいよーとつあえず、じつするか考えようよー。」

彼が大人げなく叫ぶと、皆、黙り込んで考えたが、すぐに決断は出た。

シャトルは大気圏を離れてしまつたし、オートパイロットだつたし、誰もシャトルを操縦出来なかつたため、どうにも出来ない…。皆、暗く静まり沈黙した…。

「地球、青いな…」

「ああ、青い…。まるで、仮面ライダー旧1号みたいだよ…」

シャトルは月に着陸し、全員が宇宙服を着て、月に足を着ける。重力の微弱な月の上、彼らは頭上に見える青い地球を見つめる。昨日まで居た地球が、あんなに綺麗な青なんだと…。

その青さに薄らと、地図や地球儀でお馴染みの緑色の島国、日本が浮ぶ。

すると、地球から離れ、帰るすべを失つたため、故郷が恋しくなり、一人の剣道部員が胸を詰ませて、男らしく豪快に泣き始めた。

「ウオオオン！地球に帰りてえよーー！」

これが火蓋となり、同じく、宇宙空間といつ不安に胸を詰まらせる他の選手も泣き始めた。

「うわあああんー！」なんにも地球が切なくなるなんてー！

「あああーー！こんなことになるんなら、もつと、環境に優しくなれば良かったーー！」

「うわあああんー！また地球に帰れるなら、俺、ハイブリッドの車に乗るし、リサイクルするよー！」

「うわあああ、もつと、資源を大切にすれば良かったー！」

「一酸化炭素と温暖化って、実際、あまり関係ないのに、なんで、あんなに一酸化炭素を減らす努力するのかね」

「ああ、今の俺なら、どこであろうと、ためらいなく木を植えるー！」

皆、わざとじりじり泣きながら、遠くなつた地球に思いを馳せた。混乱する顔を落ち着かせようと、マネージャーの秋田が必死にみんなに声をかけるが、皆の宇宙服のヘルメットは、滝のよつな涙で満たされていた。

こんな状況に、誰もが絶望し、我を失っていた…、その時…。

「面ー面ー面ー！」

なんと、無重力の月の上、宇宙服で竹刀を握り、面打ちの素振りをする顧問の笹錦の姿が…。

皆、その彼の気合いの籠もつた声に振り返り、ひた向きに月の上で竹刀を振る彼の姿に泣くのをやめた。

宇宙服で、竹刀を何度も振り、汗を流す笹錦。彼は、地球

から離脱してしまったことに、絶望などせず、ただひたすらに、純粹に竹刀を振る。

そんな顧問の姿を見て、一人の剣道部員が体を震わせる。

「そうだ…、確かに俺たちは、地球から離れた…。しかし、俺たちは、どこであろうが、剣道部なんだ！！」

部員達は、シャトルに置いてきた竹刀を持って、再び、月の上に立つ。両手で、竹刀を握り、彼らも 笠錦と一緒に素振りを始めた。皆、泣き叫ぶのをやめ、ただひたすらに、笠錦と共に月面で、何度も何度も素振りを繰り返す。さつきまで、涙で満たされた宇宙服は、今度は、熱い汗で満たされる。

俺たちには、剣道がある！だから、どこであろうが、剣道をしないわけには行かない！！

その情熱を胸に、彼らは地球を背景に、何度も何度も素振りを繰り返す。

「どうした！？てめえら、声が小さいぞ！！次は、胴打ちの練習だ！」

笠錦の厳しくも優しい指導に怯むことなく、部員達は、はい！と叫ぶ。

無重力下での胴打ちは、かなり難しかった。だが、それでも構わずに、部員達は胴打ちを続ける。

マネージャーの秋田は、そんな熱き血潮を宇宙でたぎらせる彼らを、大声で応援した。

今度は、月の上なだけに、突きの練習を開始すると、アメリカからの救助隊が地球から、シャトルで現れた。

アメリカから来た宇宙飛行士達、救助隊は月面で剣道をしている彼らを笑う。

「オー、クレイジー！」

「オオー、フジヤマ、ブシードー！」

「オー、サムライ、スシー・ニンジルー！」

しかし、そんな救助隊を相手にせず、ただ彼ら、剣道部は突きの練習をし続ける。

A H A H Aと笑いながらも、救助活動を始めた宇宙飛行士達は、練習の最中の笹錦の肩に手を置き、練習やめさせようとした…、その時…。

メッコンー！

笹錦は、竹刀の柄で救助隊の一人を腹を殴つた。

「オー、ナニシトルデ、オマンー？」

せっかく救助に来たのに、殴られたため、さすがに怒る宇宙飛行士達は、拳銃を笹錦に向けた。

すると…、笹錦は竹刀を彼らに突き付け叫んだ。

「バカ野郎！今、剣道してんだよ！邪魔すんな！！」

「ノー、ワタシタチ、アナタタチ、タスケニキタ！！ナノニ…」

「うるせえー！バカチン！」

月面を竹刀で叩き、笹錦は拳銃を突き付けられながらも、彼を睨む。

「俺たちは、剣道部なんだよ！月の上であるしが、剣道部でしかねえんだよー！竹刀があれば、どこであろうが、剣道をやるしかねえ

んだよ！俺たちは、剣道でしか自分を表現出来ない不器用な人間なんだよ！！」

笹錦のこの言葉に、宇宙飛行士達は拳銃を月面の上に落とした。叫び終えた笹錦は、再び竹刀を握り、突きの練習を再開した。

宇宙飛行士達は、ガタガタと身体中を震わせている。

「クレイジー…、クレイジー…、ジャパーネーズ、イッツア、クレイジー…」

「バッド…、こんなクールなクレイジー見たことない…！」

宇宙飛行士達は、身に着けていた武装をすべて、月面に捨て、大きくジャンプし、たまたま宙に浮いていた竹刀を握った。宇宙飛行士達は竹刀を握りながら、涙を流し、部員達と一緒に、竹刀で素振りを始めた。

笹錦は、そんな宇宙飛行士を見つめ、静かに微笑む。

「そうだ！国境も、地球も、宇宙も関係ねえ！！ただ、竹刀と愛があれば、俺たちは生きていけるんだ！！」

こうして、誰彼問わず、皆、月面の上で、ただひたすらに夢中になって、剣道を続けた。

そして、数日後…。

彼ら、ヒデキ高校剣道部員達は、地球上に無事に帰還。この些細な出来事は、アルマゲドン以来に、多くの人々に感動を与えた。何百年後も世界に語り継がれた。

地球上に帰還して、すぐのインタビューにて、ヒデキ高校剣道部顧

問の笠錦純平は、こう語った。

「地球は、仮面ライダー旧1号みたいでした…」

### (後書き)

教師をテーマにした作品を以前から考えていたのと、前作の『剣道やろうぜ！』が、いろいろ問題だらけだつたため、そのリベンジで、また剣道をテーマにした作品に…。最近、某有名ロボアニメシリーズの热血系の異色作に感銘を受け、構成では、県大会の会場は月だつたというオチで終わるはずだったのに、この展開に…。まあいいや…。登場人物の名前は、お米のブランド名から。歴代最短時間で書き終わった作品でした…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3589f/>

---

水の星へ愛をこめて

2010年11月12日16時25分発行